



1.1 知床エコツアー体験

エコツアーがこれだけ普及しても、まだエコツアーに参加した経験がある人はそう多くはない。しかし、気がつかないうちにエコツアーに参加していることも多い。そこで、本書のテーマを共有するために、まず北海道・知床のエコツアーを紹介するので、体験してもらいたい。

エコツアーは、①出発地からガイドが付いて案内する「全体ツアー型」、②現地（観光地）で集合して、滞在期間中はほぼエコツアーに参加している「現地ツアー型」、さらに③観光地に滞在する間に部分的にエコツアーに参加する「オプションツアー型」に大きく分類できる。本節では、②の現地ツアー型のエコツアーを、世界自然遺産である知床でのガイドツアー¹⁾として紹介する。このツアーは現場の取材をもとに構成されており、ほぼ実際に行われているツアーを模しているの、読者も臨場感あるエコツアー体験ができるだろう。

1 エコツアーへの誘い

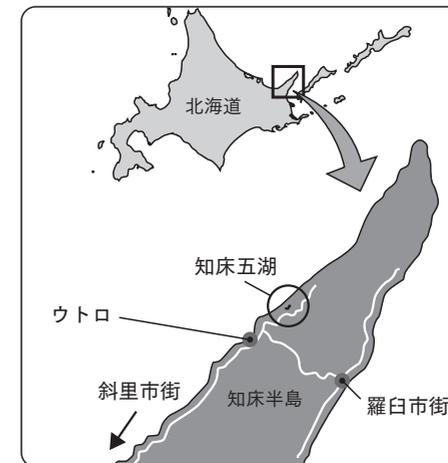
ツアーに出かける朝はいつも緊張する。何度か利用した旅行会社のツアーなのだが、同行する人との相性やグループの雰囲気、ツアーの様子がすいぶん変わってしまうからだ。今回のツアーは札幌の会社が企画した『ガイドと知床の原生自然をめぐるエコツアー』だ。ツアーといっても、参加者は自分で現地に集合し、そこからガイドが付いてエコツアーに出発する。ヒグマやクジラ、海鳥など、知床の自然の魅力が十分体験できるツアーだとパンフレットで説明してあるので楽しみだ。今回はどんなツアーになるのだろうか。

前夜、午後11時過ぎに札幌を出発した夜行バスは、7時間あまりかかって目的地のウトロに到着した。夜行バスに乗り慣れていないせいか、腰や背中が痛

1) 旅行業法では、官公庁に登録した「旅行業者」または旅行業者が委託した「旅行業代理業」でなければ、一般にいう「ツアー」は販売できない。しかし、実際の現場では、「ツアー」と名付けられた観光サービスは多い。本書でも厳密な意味でのツアーだけでなく、地域で行われているこうした広い意味でのツアーも含めて考えている。

い。バスの乗客のなかにエコツアー参加者がいたかもしれないが、到着地で集合するまで誰が参加者なのかはわからない。

ウトロは、オホーツク海に面した網走市からさらに知床半島に向かって入った斜里町内にある。知床へのアクセスでは、温泉や旅館、ホテルの立地が多い、このウトロがもっとも人気が高い。ここは世界自然遺産へのゲートウェイタウンである（図1-1）。



【図1-1】知床半島と知床五湖の位置

ウトロにある「道の駅うとろ・

シリエトク」でバスを降りる。環境省の展示館にはレンジャーのステーションが併設されている。建物のなかの迫力ある展示物を見ると、今日の世界自然遺産体験への期待が高まる。まだ早朝だというのに、外の駐車場へはひっきりなしに車が入ってくる。幸い天気もよさそうだし、集合時間までのんびり過ごそう。

2 ツアー仲間が集合

集合時間は午前9時だ。道の駅の前にはそれらしい格好をした観光客が集まってきた。このツアーはエコツアーなので、エコツアーガイドと少人数の参加者で半島部を訪ねる。集まったのは、ガイドの田中さんを含めて7人。参加者は中高年の夫婦と20代のカップルが各1組、あとは私のように1人で参加した女性だった。当たり前だが、参加者に知っている人はいない。さびしい気もするが、かえって気楽だ。

すぐにガイドの田中さんの自己紹介がはじまる。

「こんにちは。『知床エコツアーメイト』のガイド、田中洋一です。知床へ、ようこそ。今から今日のツアーの行程と注意事項を説明します。でも保護者みたいに注意するわけではないので、面倒くさがらずにちゃんと聞いてもらえるとうれしいです。」